

- ・積雪寒冷な気候に対応するため、戦後早期から、断熱や気密の技術開発に取り組む。
- ・1988年から、産学官が一体となって、北海道の気候風土に適した「北方型住宅」を開発・普及。

1950      1960      1970      1980      1990      2000      2010      2020

省エネ基準  
1980

新省エネ基準  
1992

次世代省エネ基準  
1999

改正省エネ基準  
2013

建築物省エネ法  
2015

- ▶ 充填断熱
- ▶ アルミサッシの普及

▶ 樹脂サッシの普及

▶ 基礎断熱工法

- ▶ スカート断熱、付加断熱
- ▶ パッシブ換気、床下暖房

▶ 計画換気、全室暖房

7,300ℓ

50mm断熱

4,500ℓ

100mm  
(気密化)

1,500ℓ

150mm  
(高気密化)

1,200ℓ

200mm  
(高気密化)

970ℓ

800ℓ



ブロック造住宅

北方型住宅

北方型住宅  
[2005年基準]

北方型住宅ECO  
[2010年基準]

北方型住宅2020  
[2020年基準]

<年間の暖房用灯油消費量>  
札幌、全館暖房、設定室温20℃  
の場合の推計値

高気密・高断熱化を目指した北方型住宅の開発・普及  
▶▶暖房用灯油使用量を大幅に削減

防寒住宅

寒地住宅

## 北方型住宅

認定制度

登録・保管制度

<北方型住宅基準>

▶4つの基本性能

▶3つのしくみ

▶BIS認定制度



▶サポートシステム



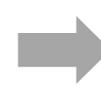
きた住まいる制度

- ・高断熱、高气密化によって、吹き抜けなどの開放的な空間が実現(設計の自由度が向上)。
- ・温度むらが小さくなり、快適な空間を実現。

1 住宅の性能向上と  
施工技術の向上



2 快適・安心な  
空間の実現



北海道らしい  
豊かな住まい

## 1 住宅の性能向上と施工技術の向上

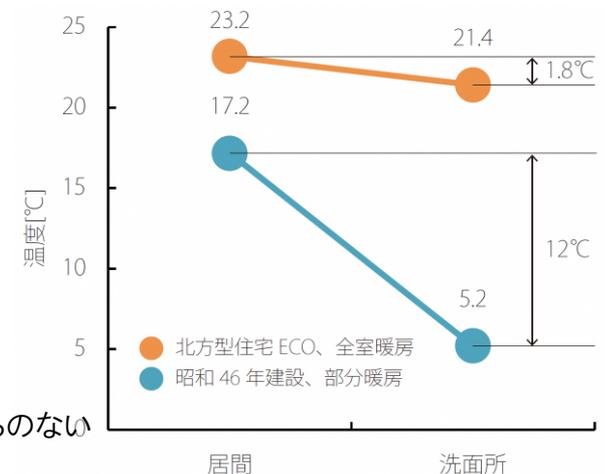
- ①断熱住宅から高断熱高气密住宅へ
- ②一次エネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出量の削減へ
- ③気密性能の向上や基礎断熱工法などによる高耐久な住宅へ



間仕切壁のない開放的な空間、  
道産木材活用で、ぬくもりのある空間を実現

## 2 快適・安心な空間の実現

- ①自由な設計による開放的な空間
- ②温度むらのない、健康で快適な空間
- ③高齢者等に配慮した、誰でも安心して生活できる空間
- ④道産材の活用で、ぬくもりのある空間



全室暖房により、温度むらのない  
快適空間を実現

- ・北方型住宅は、北海道が普及推進する住宅のブランド。
- ・高い品質の確保と北海道らしい豊かな住まいづくりに向け、**北方型住宅基準**を設定。

## 北方型住宅の理念

### 北海道の気候風土に根ざした質の高い住宅の推進

- ・北海道にふさわしい豊かな住まい、住まいづくりの実現
- ・寒さを防ぐ技術のみならず、暮らしや住まい方にも配慮しながら、良好な社会資産の形成と北国らしい生活文化の確立を目指す

## 北方型住宅基準

### 4つの基本性能



①長寿命



②安心・健康



③環境との共生



④地域らしさ

性能の違いによる  
北方型住宅の3つのグレード



北方型住宅  
2005



北方型住宅  
ECO  
2010



北方型住宅  
2020

品質の確保・適切な維持保全

### 3つのしくみ



①専門技術者の関与  
BIS資格者による設計・施工



②住宅性能の見える化  
住宅取得者へ  
住宅ラベリングシートを交付



③住宅履歴情報の保管  
新築時の住宅の記録を「きた住まいるサポートシステム」に保管

## きた住まいる制度



システムでできること

- ・きた住まいるメンバー(BIS資格者等)の情報を公開
- ・住宅ラベリングシートの作成、発行
- ・新築時の図面や工事写真、修繕履歴等の保管
- ・北方型住宅基準への適合をチェック